要領様式第２号

出張報告届

令和７年１２月４日

吹田市議会議長様

会派名 吹田党・参政党議員団

代表者氏名　後藤恭平

出張者氏名　中西勇太

吹田市議会事務局
7.12.04
受付

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出　張　先	大社文化プレイスうららら館だんだんホール
期　　間	令和７年１１月３０日から　１１月３０日まで　１日間
出張の成果	別紙のとおり
備　　考	視察スケジュール　１１月３０日（日） 11：00～16:30　子どもまんなかフォーラム （大社文化プレイスうららら館だんだんホール）

研修報告書

吹田党・参政党議員団
中西勇太

子どもまんなかフォーラム　２０２５in神迎え出雲

１　研修の背景

少子化や発達障害の増加、不登校の増加といった子どもたちに係る心身の健康課題が深刻化し複雑化する現代において、教育・福祉・食・環境といった分野を横断的に捉える必要性が高まっている。子どもたちの健全な育成を支える政策として、食の重要性が再評価されている。特に学校給食や家庭における「食育」の推進、栄養価の高い農産物の供給体制、有機農業による安心・安全な食環境の整備は、自治体の重要施策となっている。また自然体験・食育・冒険教育などを通じて「子どもの心を育てる」多様な実践も行われていること。環境負荷や資源の枯渇、農業従事者の高齢化など多くの課題を抱えている農業や持続可能な循環システムで成り立つ持続可能な社会の実現が課題となっている。

本フォーラムでは、農水省・環境省・子ども家庭庁が連携し、地方議員や教育関係者、有機農業者などが集い、食・農・健康・環境が有機的に結びついたまちづくりを展望する貴重な知見が共有された。吹田市における母子支援、教育政策、学校給食改革、農との連携政策、環境政策等を検討する上で有益であると考え、学びを吹田市における政策形成に活かすべく本視察に参加した。

２　研修の内容

〇子どもの心の育ちと食（腸内環境）の関係

（１）国の動向

・農水省より、学校給食における有機農産物の利用推進に関するメッセージがあり、国を挙げた有機農業支援の流れが確認された。

（２）パネルディスカッション：食と心身の健康

・腸内環境と神経・免疫の関係を踏まえた新たな食育の方向性。アレルギー疾患や発達障害の増加は、私たちの生活が間違っていることを神様が教えてくれている。考え方を改めて、腸内細菌が人間の健康を守ってくれるよう食生活を正す必要がある

・無添加給食の実践によるアトピーや発達障害の改善事例が紹介され、ミネラル補給や発酵食品などの効果も報告。

・東洋ライスの、金芽米の科学的エビデンスと全国自治体での給食導入事例の解説。

（３）泉大津市の先進事例（南出市長）

・農業連携協定によるオーガニック米の地産地消モデルを構築。

・「マタニティ応援プロジェクト」により、低出生体重児の比率が 3.3%に半減した成果を報告。

・「土の微生物＝人の腸内環境」という環境と健康をつなぐ視点での施策展開。

○子どもの心を健やかに育てる環境とは

（1）教育とは「経験」である

・冒険教育：リスクを伴う自然体験こそが、子どもに主体性・協調性・生きる力を育む。文科省が掲げる「生きる力」は、教科書ではなく「場」の中でこそ培われる。

・経験主義 vs 系統主義：知識中心の教育ではなく、体験から学ぶ教育が重要。

（2）子どもを「空っぽの器」ではなく「種」として見る視点

・「何の天才か？」と問いかける視点が大切。SNS やボランティア体験を通じて子どもが大人の優しさに触れ、心を開いていく姿が紹介された。

・沖縄での実践：「お腹の中から保育園」など、妊婦期からの教育・ケアに取り組む。

（3）食と心のつながり

・無農薬有機食の導入で発達障害の子たちの行動の改善が見られた事例報告。農作業・調理・生活の一体的な支援が、子どもの行動や自己肯定感を改善。

・過剰な添加物や加工食品を避け、自然に近い食生活に戻すことで、子どもが本来の力を取り戻す事例報告。

（4）母親の幸福と子どもの心の発達

・家庭環境の影響：不安定な母親の精神状態が、子どもの寂しさや問題行動につながる事例が共有された。

・母親支援の重要性：「お母さんが笑える社会づくり」が子どもの心を育てる最も重要な基盤であること。

（5）経済・社会の価値転換

・共存・助け合いの経済へ：現代の競争・効率主義的経済が子どもの育ちを阻害している、「共育」「共助」へと価値観の転換を求めた。

アグロフォレストリー・持続可能な農業：環境と調和した農業モデルが子どもの未来を守る基盤になるとの展望

○子どもと地球の未来に繋がる持続可能な農業と環境教育

（1）収量と品質を向上させる革新的農業技術

・アミノ酸吸収・疑似光合成：植物は根からアミノ酸を直接吸収でき、余剰エネルギーを品質や耐性向上に回せる。酢酸の投与も干ばつ耐性と土壌改良に効果的。

・微生物による土壌改善：特定の微生物が発酵を通じて土を柔らかくし、根の成長を促進。良質な堆肥は発酵臭（醤油様）を示す。

・成果例：人参 7 倍、きゅうり 4 倍の収量増加、桃糖度 30 度（ギネス級）、無農薬キャベツの栽培成功など。

（2）循環型社会の技術と構想

・ケミカルリサイクル：日本が世界をリードする高性能再資源化技術。CO_2排出削減と資源循環の両立を実現。

・参加型リサイクルの仕組み：子ども向け粘土やマクドナルドの例のように、「正しい」を「楽しい」にすることで市民参加を拡大。

・地産地消と資源連携：農業に必要な有機資材を森や地域資源から得る循環の仕組みを構築し、都市と農村の相互補完を進める。

（3）地域循環共生圏と「環境生命文明社会」の展望

・森・里・川・海の水循環を基盤とし、地域単位で完結するエネルギー・食・資源の循環を構築。

・ローカル SDGs：脱炭素、自然共生、資源循環を柱とする「生命的社会システム」への転換を目指す。

・体感・体験の重視：自然に触れることで、環境・生命の価値を直感的に学ぶ場が必要であることを再確認。

3　研修からの学びと今後への活用

吹田市においても給食政策の質的転換を図る。金芽米や無添加調理、有機食材の導入により、単なる無償化でない「命を育む給食」への転換の提案を継続する。

妊産婦・乳幼児支援との連携を行い、泉大津の「マタニティ応援プロジェクト」のように栄養支援と健康アウトカム向上がつながるモデルの導入を推進する。

腸内環境と発達障害対策の接続。教育・福祉・健康分野を横断する政策として、腸内環境改善と子どもの行動・発達支援のエビデンスを活用した施策形成を行っていく。

環境政策との統合的展開を目指し、「土を守ることが子どもを守る」視点から、有機農業・堆肥化・水循環・食育を一体で進める政策モデルの構築を目指す。

吹田市の教育政策への応用として冒険教育や自然体験、農業連携を通じた体験型学習の導入。市内公園や農園を活用し地域連携も活かした取り組みの提案を行う。

母子支援の施策強化を行い母親が安心できる地域社会の構築（子育て相談、就労支援、居場所づくりなど）を軸に、子どものメンタル支援を間接的に強化していく。

福祉・教育の統合支援：発達支援、居場所事業、農福連携などを横断する「心の成長を支える地域ネットワーク」づくり。

家庭菜園や学校農園も含めた無農薬・高栄養の栽培技術導入により、給食や福祉施設への安全な食材供給の強化。

資源循環政策、食品残渣・剪定枝などの有機資源の堆肥化や、日本が世界をリードする高性能再資源化技術を生かした地域循環資源化の推進。

市民参加型環境教育：子ども向け粘土やリサイクルプログラムを活用した楽しさのある体験型学習機会の創出。

地域共生圏構想：吹田市内での「都市と農的生活の融合モデル」実装に向けた政策的準備を促す。

上記、学びを今後へ活用し吹田市における学校給食や家庭における「食育」の推進、栄養価の高い農産物の供給体制の構築、母子支援、教育政策、農との連携政策、環境政策へとつなげ、食・農・健康・環境が有機的に結びついたまちづくりを実現していきたい。

以上